

■第9回犬山市観光戦略専門部会（令和3年12月27日開催） 発言要旨と対応方針

番号	委員名	要旨	対応方針
1	奥村委員	P.17に消費額について3市との比較があるが、高山市、名古屋市との比較があればほしい。	高山市、名古屋市の消費額についても確認する。
2		P.54の目標設定に宿泊業地元調達率とあるが、昨年度から全国の商工会議所で事業再構築補助金に力を入れて大企業をはじめ中小企業に手助けをしている。来年度も補正予算で予算化されようとしているため、宿泊業もこれから伸びてくると思う。	観光客に来て頂くことで地元が何かしら潤うことを測るための指標として設定した。会議所とも連携して進めたい。
3		P.55の重点プロジェクトに①遊園ルネサンス②日本ライン再発見ルートとあるが、木曾川の景観が整備されてきれいになっているが、国、県にお願いして何とか維持してほしい。駅前通りは城下町へつながる道であるため、歩道の整備を位置付けてほしい。	国土交通省、愛知県とはソフト事業だけではなくハード事業も連携して進めていきたい。駅前通りと栗栖への県道は課題であり、適宜要望していく。7-5景観・インフラの整備に記載する。
4	服部部会長	国や県への要望事項も戦略に書いてもよいのではないか。	施策を展開していく中で国、愛知県と連携していく必要があることについては、働きかけていく旨を記載する。方針別施策「7-5景観・インフラの整備」内、取組みの方向性に記載する。
5		消費額の比較対象では、犬山市と常日頃比較される伊勢市などは押さえておきたい。	高山市、名古屋市とともに伊勢市の消費額についても確認し記載する。
6		駅前通りの歩道整備については記載があるのか。記載がなければ、重点プロジェクト6-3城下町景観・環境レベルアップに記載するなど、具体的にどこで対応するのかを明らかにした方がよい。	駅前通りの歩道整備については記載がないため、方針別施策7-5景観・インフラの整備内、取組の方向性に記載する。
7	片岸委員	広域連携の視点を入れて頂いたよかった。犬山市に来て頂いた人にできるだけ長く滞在してほしい。犬山市は日本有数のオーセンティックな観光都市を目指していきたい。インディゴが開業すると長期滞在のインバウンド客が多く訪れることになるであろうが、犬山市に限らず周辺への観光もあるため、犬山市をハブとして広域連携を推進していけるとよい。	大変ありがたいご意見・提案である。お話にあるとおり、大きな目標を掲げて関係者全体でそこに向かっていくことは非常に大事なことである。計画には出来ること、確定したことだけ記載するのではなく、大きな目標に向けチャレンジしたい施策も多く盛り込んでいる。名古屋鉄道も協力して頂けるのは心強い。インディゴをはじめとして犬山が拠点となり、広域連携を推進するという提案については、戦略でも目指すところである。重点プロジェクト及び方針別施策に、新規で「広域連携」を盛り込んでおり、記載する。三方よしの考え方もまさに戦略で目指そうとしているものである。方針別施策「7-6市民とともにある観光」ほか、随所に市民参画を記載する。地元調達率は手法について要検討ではあるが、何らかの形で計測したい。大目標のKPIに計上する。
8		市民とともにある、市民が潤うという話があったが、名古屋鉄道が直接運営している施設もあるが、犬山市に訪れてよし、住んでよしという形になることが、今後の事業として今後取り組んでいくべきことと認識している。観光戦略で取り組んでいこうとしていることと一致しているため、実施主体の中の一民間事業者として積極的に関わって行く必要があると思っている。	
9		地元調達率のカウントは難しいと思うが、それが高まることで犬山の観光がサステナブルになっていくことが大事である。いかに実施、推進していくためにはマネジメントを重視した観光推進体制を整えてほしい。一民間事業者として事業採算性の確保も検討していきながら犬山市の魅力向上に貢献していきたい。	
10	片山委員	P.54の目標設定にホスピタリティの目標指標に「市民、事業者、行政が連携した観光まちづくり事業の数」とあるが、現状値1事業、目標値3事業とは具体的にどのようなことを行っていくのか。	現状値に1事業と記載したが誤りであり、0である。訂正する。今のところ3事業の具体的な想定はないが、市民、事業者、行政によって観光まちづくりに資する事業を城下町、栗栖、内田河畔で何らか展開できるとよいと考えている。現在も市域全体を見渡すと市民によるイベントやマルシェが立ち上がっているため、市も何らかの支援や協働を考えたい。ただし、このKPIは設定の考え方、何をもって観光まちづくりの事業数とするのか、難しいと判断し、エリアマネジメントの実施箇所数、観光まちづくり会議開催数と参加者数に変更する。
11		前回の専門部会で、犬山市の観光戦略は宿泊観光を意識した戦略であると認識したが、新しくできたμスタイルホテル、これからオープンするインディゴも含め、従来のホテルとも一緒になって盛り上がっていくためには、その2つのPRのみならず、既存のホテルもPRすることで観光客が増えていくと信じている。	宿泊を伸ばしていくためには宿泊施設が充実していくということで新たな2つのホテルがけん引役となると考えており、特出ししているが、目指す姿としては、その他の宿泊施設も合わせて充実していく必要があると考えておりPRも進める。全体の底上げが必要であり、チャレンジする重点施策に「既存宿泊施設の充実」を設定している。鉄道利用者に周遊してもらうことは戦略でも重要な要素。犬山駅から遊園駅の周遊を図ることとしてお

■第9回犬山市観光戦略専門部会（令和3年12月27日開催） 発言要旨と対応方針

番号	委員名	要旨	対応方針
12	片山委員	日帰りである方は鉄道で周遊するため、周遊と滞留を意識した方がよい。	り、方針別施策「7-1滞在・体験型観光の充実」の取組みの方向性に記載する。
13		インフラの整備は難しいかもしれないが、名古屋鉄道の若手の方と意見交換する中で、どこから城下町であるのかわからないという話や歩道が整備されていないという意見があったため、戦略に入れ込んでほしい。	インフラの適正な整備は観光客にとっても市民にとっても好ましいことである。何かしら戦略の中で位置付けたい。城下町らしい整備を進めることについて、方針別施策「7-5景観・インフラの整備」内、取組の方向性に記載する。
14	片山委員	前回の専門部会で服部部会長よりロケ地の話があったが、チャレンジする重点施策にロケ地誘致を入れた方がよいのではないかと。愛知県内では豊橋市がロケ地誘致に力を入れている。	チャレンジする施策に具体的に書き込みがないため反映していきたい。前回の親会議でもご意見頂いたが、「7-4 資源発掘・創造・ブランド形成」「7-7 データを活用したプロモーションの展開」の取り組み内容にフィルムコミッションの推進活動を追記した。ご指摘のとおり、ロケ地となればイメージの向上や聖地巡礼にもつながり多方面に効果が期待できる。
15	服部部会長	フィルムコミッションという体制でやろうとすると7-7になるが、ロケ地誘致の観点で、地域資源自体がそれぞれに寄与するとなると「7-4 資源発掘・創造・ブランド形成」になってくるため、中身と体制の書く両方あるとよい。	「7-4 資源発掘・創造・ブランド形成」と「7-7 データを活用したプロモーションの展開」の両方でロケ地誘致・FC活動推進について記載する。
16	梅川委員	犬山らしさの基本コンセプトのあとに3つの基本理念があり、3つの基本理念と観光まちづくりの将来像の関係性が腑に落ちてこない。P.42の3つの基本理念に何のための基本理念であるかを書いた方がよいのではないかと。基本理念は戦略の後半まで引っ張っていくが、観光まちづくりの将来像はP.43にあるだけである。基本理念が大事であることは理解しているが、整理がまだわかりづらい印象がある。	32の服部部会長のコメントのとおり
17		SDGsが整理されてわかりやすくなっているが、このあとにSDGsのどの目標に対して解決するのか、具体的なプロジェクト毎の記載が全くない。前はアイコンが入っていたがなくなってしまうため、ここでSDGsのことに触れる意味が薄くなってしまっている。おそらく重点プロジェクトへの紐づけがあると思うため整理された方がよい。	現時点（専門部会開催時点）で十分SDGsとの関係性について整理できていなかったため、基本理念と将来像との紐づけを試みた。その上で、SDGsを実現するための重点プロジェクトと169のターゲットとの関係性を整理した。
18		P.45とP.46で犬山市民のターゲットを独立させているが、犬山市民にも若者・ファミリー・シニアもあると思うが、軸が違くと印象がある。犬山市民と年代、圏域、目的の分けと合わない気がする。	市民は担い手でもあり消費者、市内の観光を楽しみ、愛着を持っていただく対象であるため、ターゲットとして位置づけている。表を別にして把握ができるように整理した（P45-46）。
19		P.52に市全域の将来構想図があり、P.53の犬山城下町エリアの将来構想図は特出しされて重要であることはわかるが、将来構想図であるため、将来の方向性を書いた方がよい。遊園ゾーンは大事であると思うが、遊歩道整備だけに見える。インディゴも書いていないが、今回一番大きな変化ではないか。	将来構想図は徐々にカスタマイズしているが、そろそろ完成させなければならない（12/27時点。その後修正）。ご指摘頂いたことを検討して反映する。インディゴを入れることによりμスタイルホテルを入れるかの議論もあるが、インディゴは遊園ルネサンスゾーンには欠かせないものであるため、滞在型宿泊施設と称して計上した。犬山城下町エリアの将来構想図はさらにブラッシュアップした。遊園ルネサンスゾーンは、「遊園ゾーン」に名称を変更する。遊歩道整備を特出しして進めていこうとしているが、行政としてはこちらに記載して是非でも進めていきたいと考えている。ハード整備だけでは空間整備で終わってしまうため、ハード事業を充実させるためのソフト事業も大事である。歩道の中で商売的なにぎわいをもたらす空間づくりとともに、民間の土地、宿泊施設を充実させる両輪でなければ、歩道空間は市民、観光客にとっても魅力的なものにならない。戦略での表記が歩道整備をやるという意思が強く、重点施策にも宿泊・物販・飲食と記載はあるものの、弱いため書きぶりを強化する。
20		P.54の目標設定に苦労されていることがよくわかる。地元調達率は重要であると思うが、どういう視点、どういう調査の仕方をしたらよいか工夫が必要であると思う。	ご指摘のとおり、KPIはまだ十分でなく（12/27時点）、精査を進めた。地元調達率に加えて、地元使用品目を追加した。地産地消を測る指標としていきたい。
21	P.55の重点プロジェクトマップは基本コンセプト「犬山三景 水景・城景・緑景」に紐づいているが、3つの基本理念との整理ができていないのではないかと。	P56重点プロジェクトマップで犬山三景、基本理念、将来像について整理し説明することとする。	

■第9回犬山市観光戦略専門部会（令和3年12月27日開催） 発言要旨と対応方針

番号	委員名	要旨	対応方針
22		P.56の「6-1 遊園ルネサンス」はイメージ図をどこまで書き込むかであるが、施策の展開方針を見ると最終的には遊歩道整備しか書かれておらず、にぎわいのあるエリアにしていくニュアンスのことが書かれていない。	歩道整備は行政（観光部局）の強い意志で是非とも実現したいと考えている。一方、ハード整備だけでは賑わいや魅力は高まらないことは承知しており、ソフト面での充実も進めたいが、どのような形で魅力と賑わいを形成するのか、については周辺住民との対話を重ねた上で作り上げていくものと考えており、現時点ではどこまでどのように書くかは要検討と考えている。ただし、犬山駅から遊園駅までの回遊とそれによる賑わいは目指すところであるので、遊園駅も含み賑わいゾーンとして表記したい。
23		P.64の「6-4 クロスオーバー資源開発」のチャレンジする重点施策に「DMO機能の導入を検討」があるのは違和感がある。	重点プロジェクトの中に「DMO機能の導入を検討」を入れたいと思っている。「6-4 クロスオーバー資源開発」は多様な主体がそれぞれの場所で観光に関わり、例えば市民には体験メニュー造成等で活躍してもらいたいと考え、それらを取りまとめ活性化させていく主体者はDMOの役割となるであろうと考え記載している。ただし方針別の施策「7-9マネジメントを重視した観光推進体制の整備」にも記載を強化していきたい。
24		P.68からの「7.方針別の施策」に「ターゲット別の方向性」と「チャレンジする重点施策」にある重点プロジェクトとの星取表は必要あるのか。星取表よりは、重点プロジェクトとの関係性ではなく、チャレンジする重点施策の説明があった方がよいのではないか。	「7.方針別の施策」はこれまでのおさらいを基本理念毎に再構成したものになっているため同じものが二度出てくる。くどい印象もあるが、市民、観光事業者にも確認しながら見てもらいたいため、このまま残す形としたい。
25	梅川委員	「7.方針別の施策」に成果指標があるが、重点プロジェクトには成果指標がない。重点プロジェクトの方に成果指標を設けた方がよいのではないか。	「5.目標設定」では大目標としてアウトカムで設定した。方針別の施策にはアウトプットでのKPIを基本とし、重点プロジェクトに成果指標を入れるかは悩んだが結果として止めにした。あまりにも多く設定してしまうと策定後、数字を追いかけるのに厳しくなってしまう為。行政内部では成果指標を多く設定して定点観測して行きたいと考えるが、オフィシャルな出し方としては今のような形を考えている。
26		P.84の「8.コロナ禍からの回復プログラム」は何年くらいをイメージしているのか。2024年、2025年あたりには元に戻るのではないかとされているが、その話を整合が取れているのか。	状況が刻々と変化するため具体的な年次は表現できないと考えるため、具体的な年次は記述しないこととしたい。書き方としては、段階的にターゲット、圏域を拡大していく、という方向性を記載している。
27		P.84の「新型コロナウイルス感染症の影響からの回復に向けて配慮すべきこと」の⑤推進体制の構築とあるが、その中で安定財源を超過課税により確保という意味がわからない。	令和2年度の専門部会で頂いた意見や先進事例などに基づき表記していたが、ご指摘のとおり現時点では表現がふさわしくないので、変更する。
28		P.86の「今後の検討課題」は、検討課題として残すのではなく、重点プロジェクト入れた方がよいのではないか。	戦略では施策の全てが確実に実施できると確定したものだけでなく、チャレンジングな施策もあえて掲載する方針としている。少しでも可能性があるならば、また必要なものであれば、記載しそれに向けた取組みを進めよう、という考え方。一方、現時点で取組みの方向性が見い出せないが、課題として確かに存在するものもあり、そうした案件については、「課題の認識」として項目立てすることとした。戦略期間中に「今後の課題」に記載していたものが、取組みに着手できるようになる可能性もあり、表記しておくことが大切であるとする。表題（タイトル）については、課題が残ってしまっている、というイメージを無くすため、「未来に向けて検討する課題」と表現した。
29		P.87の「戦略の評価と見直し」で戦略の進捗管理をしていく戦略会議は、今戦略の策定の役割を担っている会議の印象があるが、戦略を推進する会議の名称にした方がよいのではないか。	犬山市観光戦略会議は市条例に基づく附属機関であり、名称は固有のものであるためご理解いただきたい。なお、実際の位置づけはご指摘のとおり「推進するための会議」と考え、その旨を表記する。
30		推進体制の中で市民、まちづくり団体と頑張っってやっっていくという形を表現した方がよいのではないか。	体制図の中で市民とともに創っていくこと、市民参画がわかるような表現に修正する。

■第9回犬山市観光戦略専門部会（令和3年12月27日開催） 発言要旨と対応方針

番号	委員名	要旨	対応方針
31	梅川委員	P.88に他の計画との関係性が書いてあるが、総合計画、都市計画マスタープランしか書かれていないが、もう少し関与しなければならない計画はないのか。	全てを記載することは難しいと考えるが、ご指摘の通り総計と都市マスだけでなく、関連性が高い他計画は確認して追加を検討する（立地適正化計画を追加）。
32	服部部会長	梅川委員のご意見にあった観光まちづくりの将来像がわかりにくいという点について、総合計画などではいくつか理念を並べておいて、それを1つのキャッチフレーズに落とし込む形で将来像とすることがある。基本的には基本理念と将来像は同じことを意味している。犬山らしさがオリジナリティ、ずっといたくなるがコンフォタビリティ、みんなでつくる・みんなのための観光がホスピタリティとなり、将来像は基本理念を言いやすくした形であるため、このあとも再掲がなく、基本理念が分割しやすいために使っているという理解である。	部会長のご説明のとおりであるが、基本理念と将来像の関連と位置づけがわかりにくい点のご指摘のとおりであるため、3つの基本理念及びまちづくりの将来像のページに説明を付して理解が進むように工夫する。
33	梅川委員	今のご説明が一番わかりやすい。	-
34	服部部会長	P.55の重点プロジェクトマップが三景で紐づけされているのがわかりづらいということであったが、ここでは空間的な配置や施策の割り振りであるため三景で整理されていると思うが、施策の方は基本的に基本理念にぶら下げて整理する。空間的な配置は三景で整理することは比較的素直な感覚であると思う。	部会長のご説明と同じであるが、重点プロジェクトをマップに落とし込む場合即地的な表現となり、三景との関連性を示す必要があると考え、表記のとおりとした。一方、基本理念（=将来像）は各プロジェクトと一対の関係ではなく、横断的、あるいは全体的に関わってくることから、図としての表現が難しい。重点プロジェクトを実現することで、3つの基本理念が全体的に高まる、という考えであるが、わかりづらいため、P.56プロジェクトマップのページに関連性について説明を付すこととする。
35	梅川委員	ハードだけではなくソフトの話も書かれているため、三景での整理には違和感があった。	また、基本理念と重点プロジェクトとの関連性については、基本理念にぶら下がる基本方針の中で、チャレンジする施策と重点プロジェクトとの関連性を星取表で整理することで把握できるよう努める。
36	服部部会長	重点プロジェクトの各論を整理する時には基本理念との関係性を整理する必要があり、プロジェクトマップのような空間的にプロットした時にどの景と関係しているのかを整理しているが、おそらく基本理念と三景の両方があるとよいが、片方しかないためおかしいということか。それぞれ意味付けあるため、基本理念との関係が整理されていなければおかしいというご指摘かと思う。	
37		P.86の「今後の検討課題」は、戦略で書くのは少し難しい思っていることで、やると書き切れるものばかりではない。今の段階ではやると書き切れないものは書かないのではなく、課題として整理して、評価・見直しをする中で課題を検討し、固まったら追加していく形が望ましいのではないかという私の意見である。	今後の検討課題の位置づけについては、部会長のご説明と同じ考え方としている。取組みの方向性が見い出せないものは今後の検討課題に載せ、計画期間の中で対応できるようになったら施策に追加していく。
38		今のチャレンジする重点施策の中でも難しいと思われるものがあるため、ここであえて今後の検討課題として特出しするのに違和感を感じた。5つの課題はチャレンジする重点施策に入れ込めるのではないかという印象があったが、服部部会長のご説明で理解した。	
39	梅川委員	行政だけの話ではなく、民間の力を借りながら遊歩道を中心に、犬山市民が夜に散策ができたりデートコースになったりと将来的にはにぎわいのある空間になっていくことが木曾川観光の形になっていくという夢のある話にしていけないと、遊歩道整備で終わってしまうのは寂しい。	戦略の中で夢を描いていくことは大事であり、基本的には夢を描き共有したいと考えている。ただし、木曾川河畔の取組みを進める場合、内田地区に住んでいる方と意見交換をする中で行政側の夢が住民と一致するのか、対話が必要になってくる。ただし、すり合わせが終わるまで戦略に書けないかとなると、戦略がどんどん後追いになってしまい何も書けなくなってしまうため、現時点での夢を示しながら住民と対話も進めていきたい。
40		今小池課長補佐がお話になったことが今後の検討課題なのではないか。このプロジェクトに限った話ではないが、住民と対話を重ねて練り上げていかなければならないことはプロジェクトに入れられないため、検討課題にするのはありなのではないかと思った。	ご指摘のとおりであるが、書き方・表現は難しいと感じている。プロジェクトの実現には市民・事業者等との対話が必要であり、意見集約・合意形成は約束されたものではない。一方、そうした部分も含みながら、実現に向け市民等との対話は実施していくことは方向性として定まっている。このため、今後の課題ではなく、本論に記載しようとする。
41	服部部会長	ですます調とである調が混在しているため修正すること。	ご指摘の通り、ですます調に修正する。

■第9回犬山市観光戦略専門部会（令和3年12月27日開催） 発言要旨と対応方針

番号	委員名	要旨	対応方針
42		P.41基本コンセプトイメージ図の体裁を整えてほしい。	ご指摘の通り、体裁を整える。
43		P.43のSDGsの記載は、まちづくり系であると目標11「持続可能な都市」に着目してしまうが、観光系であると8.5に重要なターゲットがある。三景を考えた時に、目標6「水・衛生」、目標15「陸上資源」などとの関係もどうなるのか。市民参加の視点では目標17「実施手段」が大事になってくる。今回やろうとしている理念とどこが合致しているのかという大きなストーリーを書きつつ、一方でそれぞれの施策が何にぶら下げているのかの対応を整理しないと、SDGsを書いている意味がない。	SDGsと基本理念との関連については、表記が十分ではないため、内容をもっと精査した上で該当箇所、関連箇所について明確に記載するようにする。
44		P.46のターゲットに犬山市民が特出しされているが、基本理念や年代、目的などのカテゴリーの分けなく置かれているのは違和感がある。精査が必要。	犬山市民も犬山を楽しむ、犬山で飲食・購入をする、というターゲットであるため、ターゲット別対応方針に記載した。ただし、犬山市民は観光ターゲットと担い手の両方が考えられるため、あらためて双方を分類した形で表記すべきであると考え、再構成することとした。
45		P.53の犬山城下町エリアの将来構想図は、メインストリート、サブストリート、遊園ゾーンとエリアの説明だけになっている。にぎわい創出ゾーンなど、何としたいかがわかるゾーン設定が必要。メインストリートは回遊性を増すためと思うが、サブストリートは何か。意味付けを整理した方がよい。	城下町エリアの将来構想図について、内容を再精査し修正する。ゾーン設定は把握ができるよう、説明を付する。
46	服部部会長	P.54のホスピタリティで設定した観光まちづくり事業の数とエリアマネジメントの実施箇所は同じなのではないか。どちらか一方になるのではないか。	片山委員にもお答えしたとおり、「観光まちづくり事業」とはどのようなものか、という定義が難しく、市民が実施する観光メニューのカウントについても定義付けが困難であろうと感じる。KPIとしては適さないと考え、外すこととする。一方、エリアマネジメントの実施箇所としての想定は現時点で3箇所ある。あくまで想定だが、内田河畔、栗栖園地、城下町である。エリアマネジメントの定義もしっかりと定める必要があるが、現時点では民間が主導もしくは参画する中で、特定の地域で稼ぐ仕組みを構築し、そこで得た収益の一部がその地域や当該団体の活動に使われる、再投資されるようなイメージである。このことから、栗栖園地では現在管理している発展会が国交省の認可を受け区域指定の上で管理団体となり、収益を上げる仕組み構築を目指したい。内田河畔も歩道整備の先には、同じように管理団体で管理し収益を上げ、地域に利潤が回るようにしたい。城下町についても観光客がくれば来るほど地域が潤う仕組みを作り
47		市民参加でやられた観光メニューがカウントできればよいが、全てカウントしてフォローしていくのは登録制度でもかければ難しい。そういうのをモニターしたりして取り組みを把握していくためには何かしら登録制度を設けていくか、補助金を出した事業をカウントするか、型のはめ方を考えないとカウントできないのではないか。	たいと考えており、当面はこの3箇所のエリアマネジメント構築を実現したいと考える、こうした考え方で行けばご指摘のとおりであり、まちづくり事業数とエリマネ数は同義かも知れない（よってまちづくり事業数はKPIから除外）。
48		「6-8 市民とともにある観光」の市民とは何か。観光ターゲットとしての市民か、担い手としての市民なのか両方あるはずである。どちらを書こうとしているのかを意識しなければいけない。そもそも重点プロジェクトであるのに具体性がないが、むしろ方針別の施策に書いた方がよいのではないか。もう少しブレイクダウンして、市民参画では市民が地域の資源に対して意識するための教育、情報発信から始まり、観光公害の話もあれば市民が参加してつくっていくこともあるし、市民が観光することもある。そのような場面を整理しなければならない。	「6-8 市民とともにある観光」はご指摘のとおり、観光ターゲットとしての市民、担い手・参画者・人材としての市民、観光まちづくり推進の際に対話すべき対象としての市民がある。それらを整理し取りまとめる必要があると感じた。いずれにしても戦略においても観光まちづくりにおいても非常に重要な要素であるため、整理し表記する。重点プロジェクトではなく、方針別施策に記載する。
49		「7-2 広域連携による周遊観光構築」ももう少しブレイクダウンしなければならない。どこまで広域的にプロモーション活動を行うのか、観光メニューを地域限定ではなく広域的に観光メニューをつくることもあるし、広域的な文物を犬山に集めて犬山から発信することもある。内容を詰めていく中でももしかしたら広域連携も重点プロジェクトになるかもしれない。	広域連携は親会議で靄山委員、佐分委員からご指摘があり、専門部会でも提起されていた課題である。このため、重点プロジェクト及び方針別施策に新たに記載することとしている。内容については各委員のご指摘・助言を踏まえ、分類し整理するようにする。

■第9回犬山市観光戦略専門部会（令和3年12月27日開催） 発言要旨と対応方針

番号	委員名	要旨	対応方針
50	服部部会長	7-7～7-9はそれまでと書きぶり、表現が異なっているため再整理する必要がある。	7-7～7-9は全体を下支えする施策のため、7-1～7-6とは一致しない部分もあるが、出来るだけ項目・表現をあわせるよう整理する。
51	奥村委員	P.52に市全域の将来構想図にある新池・中島池の環境学習ゾーンの凡例と図の色が異なっている。	凡例に合わせて修正する。
52	梅川委員	令和元年度に実施した調査結果がたくさんあると思うが、プロジェクトの設定にあたってのエビデンスなど、戦略の中も調査結果を散りばめてはどうか。	今のところはP.11～17の「犬山市の観光の現状」で調査結果の一部を掲載するとともに、調査結果等を踏まえて課題の整理を行っている。その他必要なものは資料編に掲載する。
53	服部部会長	犬山の観光情報データはどこかで一括で定期的に関覧することができるようになっているか。	今のところは犬山市の統計に一部掲載されているのみであり、犬山市の観光情報のデータベースはない。観光戦略が策定された後、KPIを始め、定点観測し追いかけていく数字については、市のホームページ等を中心に集約して載せていきたい。また、その旨を方針別施策「7-9マネジメントを重視した観光推進体制の整備」に記載する。
54		データをオープン化して関心を持ってもらうことも大事である。犬山市の観光の状況がどのようになっているかを週単位なのか日単位であるのかわからないが、細目に出てくるとよい。民間事業者の工夫にもつながる。	